



洋画部屋の住人

Artist

門岡 佑衣 KADOOKA Yui

佐々木 七海 SASAKI Nanami

河原 由佳 KAWAHARA Yuka

山崎 玲香 YAMAZAKI Reika

芸術専門学群美術専攻2年

Writer

秋葉 菜々美 AKIBA Nanami

芸術専門学群芸術学専攻2年

洋画部屋：洋画コース志望の学生達が制作を行う部屋の通称。学年によって分かれている。「一にはたくさんのイーゼルが置いてある。」

洋画コース志望の門岡と佐々木。2人の作品は一見して抽象的であるような印象を受ける。彼女たちは誰から影響を受け、何を考えて制作を行っているのだろうか。日頃門岡と佐々木の制作過程を見ている河原と山崎にも話を聞いた。

大学入学以前

—みんなは油絵との出会いはいつ？

門岡 高校。長らく絵に親しんできたとかじゃなくて。小学校の時はバレー部と、転校してからはバスケットに入った。中学に入ったら小学校のバスケット部がきつすぎて、次に漫画の絵を模写するのが好きだったから美術部に入ったんだよね。そのときいた先生は今熊本大学で彫塑を教えられてるんだけど。その先生が美術デッサンとか、クロッキーとかを美術部でされる方で。私達は先生がやることを決めて、それに従うみたいな美術部だった。洋画とか日本画とかは全然制作しなかったけど基本的なことをしていて、それが楽しくてそのまま絵の方に進学と思ったんだよ。美術科がある高校が家から5分で。

高校の美術科は私たちを教えてください先生が東京藝術大学の油絵を出た先生で、必ずみんな油絵具に触れさせるんだよね。デッサンも木炭を使うっていう。洋画では木炭デッサンで、日本画とかデザインは鉛筆を使うっていう感じなんだ

けど。あとの美術系の授業は概論、美術史とかそういうのだった。

—佐々木は？

佐々木 中学校は吹奏楽部。高校は、吹奏楽以外の文化部で、ちゃんと活動している部活に入ろうと思って美術部に。

門岡 でもそこで例の先生に…。

佐々木 F先生ね。熱血指導な感じの。一番最初に描いた油絵がF 80号(114.5cm×112cm)。

—河原は美術部？

河原 中学校から美術部に入った。中学校のころは水彩とか。高校になってから先生が多摩美術大学の油絵出身の方だったから。それで油絵に触る機会があって。

佐々木 先生重要だよな。

山崎 私は中学の時から美術部で、その先生は作品の募集があったらこれをやりなさいみたいな感じで。画材は油絵具だけじゃなくいろいろ。高校入ってからの先生は多摩美術大学の染色を出た方で、好きにやってねっていう感じの先生で。好きにやってた。

抽象画とは何だ

—作品はあいった感じだけど、門岡は自分が「抽象画を描く」って紹介されたらどう思う？

門岡 納得はしない。こういう風に認識されているのかって思う。

—佐々木は自分では抽象画とは思っていないの？

佐々木 全然抽象じゃない。高校の時に周りに抽象画を描いている人が多かったから自分の絵は具象だと思ってるんだよ。私の中では半抽象が具象の範囲に入ってるんだよね。

—2人の制作を見ている山崎と河原はどう思う？

山崎 抽象を描いてるって思うんだけど、本人がそのつもりで描いてないって今聞いたからそうでもないのかも。本人はどこまでが抽象で具象なのかって思いながらやってるんだなって感じた。

河原 二人は見た感じ抽象だなんて思いつつも、モチーフがはっきり決まっていたりとかそういう意味では具象の、さっき言ってた半具象とか半抽象の感じなのかなと思う。

門岡 私も自分で思う。ゼロからは描けない。描いているものは何かわからなくても、参考にした場所も、モチーフもあるから。

河原 割と記号とか色だけの作品が私としては抽象っていう感じが強いから。モチーフとか書きたい具体的な場所があるっていう所を見ると、具象っていう所でもいいのかなって感じ。

制作の仕方

—よく使うモチーフは？

佐々木 果物か内臓かな。植物とか果物と内臓って似てない？内臓は果物に似てないけど、果物は内臓に似てる気がする。この前トマト見ていて気づいたんだよ。

何か一つ描こうと決めて、果物とかだと割ったり。トマト描いたときはたくさんトマト食べてたんだよ。

門岡 私は身近な風景。周りにあるものしか描けない。おもしろいねモチーフの決め方、食べるとか。私高校の時全部校舎から見える風景だったよ。それと鶏。—鶏は好きなの？

門岡 鶏、高校で飼ってたんだよね。私

1年間飼育係だったから、愛着わいて描きたいってなった。風景画って出されても、もし船があったら船を見るかもしれないけど、難しくない？その中で視線が集中するところを作るって言ったら、生き物をいれたほうがいいんだよね。中に鶏がいなかったらどこを見ていいやなんて思わない？

佐々木 でもモチーフがない抽象画とか、どこをみればいかわからない絵を描く人もいるよね。

門岡 それは、その人の作品じゃない？私が作りたいもの話だと、鶏なしで描いたとしても結局体が受け付けられないんだよね。間が持たないって。私が一番崇拜してる画家の櫃田伸也さんの絵は、私の絵で言う鶏の存在も入ってないし私自身があいう絵を描いたら間が持たないって嘆くけど、そういう絵を描いてらっしゃるし。他の人のそういう絵を見ても別に拒否反応が起こるわけじゃない。何か惹かれる絵ある？

佐々木 画家の佐々木良三先生の。何やってもいい感じが好き。だからいろいろやりたいんだけど。何、の部分を増やしたいんだよね。素材を知らないといういろいろなものを使えないじゃん。発想が出てこないから。

門岡 そういうことは環境なのかな。私は高校の頃の先生と、いろいろなことをやってる人が周りにいたから。

佐々木 その人たちは自分で根本から学んで、その中から一つ取り出すようにしてるから。だから自分で基礎をやらないとそれをどう取り出すかが出てこない。

門岡 私はいろいろやりたがらないわけじゃないけど、必要ないかなって思う。油絵具だけで描きたい感じがある。画材じゃなくて、色と描かれたもの中心なのかな。見たものを自分のなかに取り込んでどう吐き出すかが重要で。画材は…何でもいいのか？油絵具は長年親しんできたから選んでるだけで。



門岡佑衣《うしろがわの風景》



佐々木の作業スペース



左から門岡、山崎、河原。佐々木は授業のため不在。



洋画部屋全景

これからの話

—今後も同じ画風で描いていくつもり？

門岡 たぶんこれからも身近な風景を描いていく気がする。おそらく絵柄は変わってもテーマは変わらない。佐々木は変えようとする意志が強くない？

佐々木 去年、賞とったからこの描き方そろそろやめようかな。

門岡 河原は風景が多いよね？

河原 そうだね。風景が多い。どっちかっていうと自分の頭の中にあるものを、そのまま描けたらいいなって思ってるんだけど、それを表現する力がなかなか伴わない。とりあえず表に出す作品は風景を選んで書いてる。経験のために。

門岡 私も一回写真描いてみるかな。

山崎 私はまだ油一本に絞ったつもりはないな、自分の中じゃ。まだ選択猶予の中って感じだな。

河原 みなさん当分は実験しつつ、自分のテーマを貫きつつ、っていう形だね。

洋画コース志望の学生の多くは美術科ではなく普通科出身である。キャンパスに向かっていく時間にもそれぞれ差があるだろう。モチーフの決め方、制作の仕方も十人十色だ。筑波大学は専攻の移動も比較的簡単で、他の大学に比べて選択肢の幅が広い。それは時に学生を悩ませる種となる。

作品を見て「抽象画なの？」と気軽に聞けるのは同級生の特権かもしれない。この質問に、実は本人にもこれといったはっきりした考えはなく、模索中の学生なのである。美術科出身でなくても、部活などでこれまでに会った先生方の影響はかなり大きい。時には好きな作家の真似をしてみたりする。隣の席で制作する友人のことは実は全然知らなくて、今回話しながら「いいね。それやってみようかな」という言葉も口にされた。彼女、彼らはおおいに迷いながら、自身の道を探している。愛すべき洋画部屋の住人たち。